P3-51.

抗リン脂質抗体症候群で認められたオモテ・ウラ不一致

(臨床検査医学)
○鈴木　隆史、高橋　陽子、天野　景裕
福武　勝幸
(輸血部)
須永　和代、久野　浩史、市川喜美子
高橋　友美、高橋かおり
(中央検査部)
上道　文昭

ABO血液型はオモテ試験、ウラ試験の血液型の結果が一致してはじめて決定される。しかし、まれに新生児や悪性疾患における抗原性の変化あるいは腫瘍からの血液型物質の放出によるものなどにより、オモテ・ウラが不一致となることがある。この現象は自己免疫疾患においても自己抗体による自己赤血球の感作により経験されることがある。今回、血栓症の既往のないループスアンチコアグラント陽性の原発性抗リン脂質抗体症候群（APS）患者においてオモテ・ウラ不一致を認めた症例を経験した。患者は48歳、女性。手術前の血液凝固スクリーニング検査でAPTT延長を認めたため精査した。すべての内因系凝固因子の低下に加えて循環抗凝血素陽性、DRVVT陽性とともに抗β2GPI抗体価の高値を認め、APSと診断した。SLEなどの自己免疫疾患の合併は認められず、輸血歴もなかった。ABO型判定ではオモテがA型、ウラではO型と判定された。直接、間接クームス試験ともに陽性であり、不規則性抗体の同定を試みた。患者血清と複数のパネル血球を用いて反応させた結果、すべての反応において凝集が確認され、同定は困難であった。患者の自己赤血球を含め赤血球に非特異的に反応する抗体と考えられたが、血液検査では貧血や溶血を示す所見は認めず、オモテ・ウラ不一致の原因は高値を示した寒冷凝集素によるものと思われた。抗リン脂質抗体による赤血球に対する直接的な反応によるものも否定はできないが、実際の輸血については検査上の解釈からABO不適合輸血などの原因にもなりうると

も考えられた。同種輸血については、その危険性は低いものと考えられたが、パネル血球の凝集反応の結果からは大量輸血においては溶血反応を引き起こす可能性も考えられ、十分な注意が必要であると考えられた。

P3-52.

乾癬患者における *Malassezia* の菌相解析

(皮膚科学)
○天谷　美里、田嶋　磨美、大久保ゆかり
坪井　良治
(明治薬科大学・微生物学)
杉田　　隆
(明治薬科大学・免疫生物学)
西川　朱實

【はじめに】 *Malassezia* はヒトおよび動物の皮膚における常在菌であり、癜風のみならずアトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎など様々な疾患に関与していることが知られている。また、乾癬における *Malassezia* の関与を示唆する報告もあるが、その病態は未だ明らかにされていない。われわれは非培養検出法 (nested PCR cloning 法) を用い乾癬患者における *Malassezia* の菌相解析を行ったので報告する。

【材料および方法】 皮膚科外来通院中の乾癬患者 22 例 (44 検体) を対象とし、患者の皮疹部と無疹部 (胸部または背部) から OpSite™ を用いて皮膚をストリッピングすることにより真菌を採取し、そこから直接 DNA を採取した。rRNA の IGS あるいは ITS 領域に菌種特異的なプライマーを設計し PCR を行った。

【結果および考察】 乾癬患者において *M. restricta*、*M. globosa*、*M. sympodialis* が皮疹部、無疹部に関わらずおよそ 60% 以上と高頻度に検出され、残りの 6 菌種はおよそ 20〜30% の検出率であった。また、1 患者あたり 3.7±1.6 菌種が検出された。われわれがこれまでに報告してきたアトピー性皮膚炎患者の菌相と比較検討した結果、乾癬、アトピー性皮膚炎および健常人皮膚の *Malassezia* の菌相はほぼ共通していた。

P3-53.

院外医師の東京医大病院に対する評価
第 2 回目のアンケート調査より

(医療連携室)
○松原　邦彦、松本　弘幸、生澤富士子
窪田　裕紀、金澤　真雄

【目的と方法】 医療連携室では、平成 17 年に新宿・中野・杉並・渋谷・練馬・世田谷区で東京医大病院に 3 人以上の患者様を紹介いただいた医療機関に向けてアンケート調査を実施した。今回平成 19 年に同一のアンケートを同一条件で送付し、近隣の医療機関の東京医大病院への評価がどのように変わったかを検討した。アンケート送付件数は 1,018 件、回収は 539 件、回収率は 52.9% であり、2 年前のアンケートの回収率は 58.6% であった。アンケート対象施設の規模、東京医大の卒業か否か、所在地はどこか、東京医大までの所要時間、1 年間の東京医大病院への患者の紹介人数等のバックグランドは 2 回の調査にて大きな差を認めなかった。

【結果】 紹介患者の満足度は満足・やや満足併せて今回は 72.1% であり前回の 67.7% より改善していた。しかし紹介医の満足度は今回 77.7 % であり、前回の 76.9% と大差ない成績であった。東京医大病院に患者様を紹介するときに重視する事項としては ① 患者様のお住まいが近い 64.2% (前回 61.3%) ② 患者様の報告書がきちんと届けられる 62.5% (67.5%) ③ 面識の深い医師がいる 46.2% (42.5%) ④ 患者様からの評判が良い 34.0% (31.8%) の順であった。東京医大病院の問題点としては ① 待ち時間が長い 27.1% (32.1%) ② 患者様に東京医大病院への不満を言われた 25.2% (27.5%) ③ 紹介患者様の経過報告書が届かない 23.6% (26.1%) ④ 入院への紹介を断られたことがある 17.4% (15.1%) の順であった。

【結語】 今回のアンケートは 2 年前と同一内容で送付し、評価した。東京医大病院に対して、患者様の満足度は少し改善していたが、医師の評価は 2 年前とほぼ同一であった。東京医大病院の問題点としては待ち時間が長いが 5% の改善を、不満を言われた 1.5% の改善、経過報告書が届かないが 2.5% の改善をしたが、入院を断られたが 2.3% の悪化であった。病院のコンピュータシステムの変更と、医師・コメディカルスタッフの努力の成果で、外部の医師の東京医大病院を